

事項二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題

四五 一月七日

在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

大蔵大臣會議仏国外務省ニ於テ開会ノ件

第九号

（一月八日接受）

蔵相會議ハ七日午後外務省ニテ開會議長仏蔵相ハ問題ハ多ク専門的ノ事項ニシテ實際上重大ナルモノハ二三ニ過キサ
ル事ヲ指摘シ英蔵相亦之ニ和シ「スパー」會議倫敦會議ニ於ケル如キ困難ナル問題ナク今回ノ會議ニテ将来ノ分配ニ関シ簡單明瞭ナル案ヲ建テ再ヒ此種會議ノ開催ヲ不必要トスル事ヲ力説ス其他日、白、米、伊ノ代表モ簡單ニ挨拶シテ散会明日會議ノ進行方法ヲ決定スル筈本日ノ會議ニハ日、英、仏、伊、米、白ノ外波蘭羅馬尼亞塞爾比亞「チエツコ」希臘葡萄牙ノ代表モ出席シ且各國トモ多人数ナルヲ以テ本邦側モ本使ノ外松田代表トシテ出席セリ尚隨員トシテ關場、三谷、土田、竹内ヲ會議書記局ニ通告シ置ケリ

四六 一月七日

幣原外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛（電報）

トナキ旨ヲ答ヘ置ケリ御承知ノ通米國ハ「ヴェルサイユ」條約ヲ批准セサルモ之カ為同條約カ五大國ニ付与スル利益ノ享有ニ付米國カ他ノ四國ヨリモ劣等ノ地位ニ置カルコトナカルヘシトノ米國主張ノ根拠ハ帝國政府ニ於テハ「ヤツプ」問題又ハ旧独逸海底電信処分問題ニ関シテモ既ニ之ヲ認メタル次第ナリ右念ノ為申進ス

四七 一月九日

在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

大蔵大臣會議ノ議事ノ進メ方ニツキ主要國ニ

於テ内協議ノ件

第一三号（極秘）

（一月十日接受）

往電第九号ニ関シ

八日午後蔵相會議開会ニ先立チ仏、英、伊、白、米、日代表大蔵大臣官房ニ於テ内協議ヲ遂ケタル結果主要問題ニ就キ主トシテ關係深キ國ノ代表間ニ互讓ノ精神ヲ以テ内交渉ヲ遂ケ其結果ヲ明後十日大臣官房ニ集マルヘキ本日同様ノ非公式會合ニ提出シ協議纏マルヲ俟テ日曜日中決議案ヲ作成シ月曜及火曜ノ兩日本會議ヲ開キ討論ニ付スルコトニ話合シタリ同時ニ塞耳比、希臘、羅馬尼亞、「チエツコ」・スロ

二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 四七 四八

ドーズ案ニ基ツク賠償支払ニ米國参加方ニ関スル件

第一号（極秘）

十二月十八日米國大使本大臣ヲ來訪シドーズ案ニ基ク支払参加方ニ関シ縷々米國ノ立場ヲ説明シ其ノ主張ヲ支持セラレ度旨希望申出ノ次第アリ更ニ一月三日同大使來訪伊國ヨリ米國ノ態度ヲ是認セル案提出セラレ居ル処十二月二十六日米國政府カ巴里ヨリ接手セル電報ニ依レハ日本代表者ハ伊國案ニ同意ヲ表シタル由ナルカ三十一日着電ニ依ルニ日本代表者ハ幾分態度ヲ變更シテ右同意ノ明言ヲ撤回セリト云フ就テハ右日本代表ノ態度ノ變更ハ日本政府ノ訓令ニ依ルモノナリヤト尋ネタルニ付本大臣ハ客年往電第三八九号訓令ノ趣旨ヲ大要内話シ本問題ノ法律上ノ見地ハ暫ク措キ少クトモ衡平ノ見地ニ於テハ帝國政府ノ關スル限り米國要求ノ理由アルコトヲ認ムルモノナルカ最近巴里ニ於ケル本件詳細ノ成行ハ之ヲ熟知セス又新ニ何等訓令ヲ發シタルコ

バキヤ」及波蘭ハ専門家會議ニ代表セラレサリシニ付意見ヲ述ヘタキ旨ハ右専門家會議ニ明日ヨリ日曜迄ノ間ニ提出スル機會ヲ与フルコトトシ五時ヨリ外務省ニテ本會議ヲ開キ議事進行ノ方法ニ就キ討議ノ後上記内協議ノ通決議セリ在歐、米各大使ニ暗送セリ

四八 一月九日

在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

賠償支払ニ米國参加方ニ関スル我が方態度ニ

ツキ米代表ニ説明ノ件

第一五号（極秘）

（一月十日接受）

貴電第一号ニ関シ

米國要求ハ英國側未タ承認セサルニ顧ミ本邦側ハ非公式ニハ米委員ニ日本ヨリ何等困難ナカルヘキ旨語リタルモ會議ニ於テ何等日本ノ態度ニ関シ述ヘタルコト無キニ拘ハラズ最初配布セラレタル専門家會議報告ニ米國要求ニ関シ日本委員ハ伊國委員ニ賛成ノ旨記載アリタルヲ以テ是レカ抹消ヲ求メタリ即チ本邦委員カ會議ニ於テ發言セサリシ文句ヲ報告中ニ発見シタルニ依リ是カ抹消ヲ求メタルニ過キス本邦委員ノ態度ニ変化アリタリトハ全ク米國委員ノ誤解ニ基

クモノニ付本使ヨリ事実ヲ篤ト米代表ニ説明シ尚右ノ次第米政府ニ電報方依頼セル処是レヲ承諾セリ

四九 一月十日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大蔵大臣會議主要國代表ノ非公式會合ニ於テ
我が方要求ノ山東償額問題等審議ノ件

第一九号 (一月十一日接受)

往電第一三三号ニ関シ九日山東償額問題及染料受領ニ関スル当方要求ニ関スル覺書ヲ六國代表ニ配付シ置ケル処十日午後八時、英、伊、白、米、日代表蔵相官房ニ非公式會合ノ際真先ニ本邦要求ヲ審議シ英國側ハ昨年九月一日ニ於テ日本カ未済債權ヲ有スル限リ山東償額ヲ以テ之ニ充當スルコトヲ提議シタルカ本使ハ議定書第二項ニ依リ之ヲ争ヒタルニ結局「独逸カ其ノ臣民ニ支払ヒタル額ノミヲ日本ノ借記ニ記入スヘク右支払ニ関シ確實ナル情報ヲ得ル迄一九二四年九月一日ヨリ其ノ賠償分配率ハ完全ニ支払ヲ受クヘシ」ト英側ヨリ再ヒ提案セルニ付日本ノ未済債權ハ放棄セルニ非ス只一時懸案トスルモノナリトノ点ヲ確カメ大体之ヲ承認シタリ

午後ノ本會議ニ於テハ單ニ口頭ヲ以テ小國代表ニ協定ノ大要ヲ説明シ各國ノ意見ヲ聞クニ止メ十四日早朝英仏各文ヲ配布シ午前十時ヨリ本會議ヲ開キテ之ヲ採用シ同時ニ各國代表ノ意見ヲ記録ニ止メ直ニ調印セリ

一、本邦要求ニ基ク條項ハ別電第二三三号ノ通り尚本使ハ最終ノ本會議ニ於テ日本ニ借記スル額ハ独逸カ實際ニ支払ヒタルモノニ限ルコト又本協定ハ昨年九月一日ニ於ケル日本未済債權ニ Prejudice スルモノニ非サルコトト了解スル旨言明シ置キタリ

二、協定大要ハ別電ヲ以テ申進スヘキ処米國要求ニ關連シ協定ノ批准ノ件ハ第一米國ニ關スル條項ヲ別個ノ協定トスルコトハ米國肯セス依ツテ本使ハ今回ノ協定カ一九二三年ノ米國占領軍費用協定ニ代ルモノナルニ鑑ミ之ヲ批准ヲ要スル條約トスルコト適當ニシテ日本政府ハ之ヲ希望スト述ヘタルニ英蔵相ハ本協定ハ直ニ實施ノ必要アリ然ルニ多數國ノ議會ノ批准ヲ待タンカ折角ノ欧州平和ノ事業ヲ頓挫セシムルモノナリトテ反對シ他ノ代表モ之ニ和シ仏蔵相カ議會ニ對スル政策上「カンヌ」協定ノ如ク今回ハ「イニシアル」ニ止メ議會ニ諮リタル後正式調印

其他各國間ニ夫々話合中ノ諸問題モ大体協定ヲ得米國要求モ英米間ニ一ノ仮協定案ヲ得之ニ對シテハ仏國側ニ少シク異議アル模様ナルカ未決ノ問題モ今明日中ニハ談合ヲ図リ一方明十一日ヨリ專門家及法律家ヲシテ起草ニ取掛ラシメ十二日午後再ヒ六國代表非公式會議ヲ開キ協定案ヲ議シ十三日本會議ニ掛クル予定ナリ
在歐各大使及米ヘ転電セリ

五〇 一月十四日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大蔵大臣會議ニ於テ專門家起草ノ協定案調印ノ件

別電 一月十四日在仏国石井大使發幣原外務大臣宛電

報第二三三号

協定案中我が方要求ニ基ツク條項

第二二二号(極秘) (一月十五日接受)

往電第一九号ニ関シ

一方專門家ニ於テ協定案ノ起草ヲ急キツツアル間二十三日午後蔵相官房ニ非公式會合ヲ開キテ二三ノ未決問題ヲ議シ十三日午後漸ク協定案ノ英文出来タルカ仏訳未完ニ付同日

シタシト述ヘタルニ之レ斯拉各國反對ニテ「スパ」協定前回ノ蔵相協定モ其ノ政治的意義大ナリシニ拘ラス議會ノ批准ナカリシトテ仏蔵相ニ迫リ「クレマンテル」ハ其ノ為特ニ閣議ヲ請ヒ結局即時調印ニ同意シタリ
形勢斯ノ如キヲ以テ貴電ノ如ク批准ヲ主張スルモ貫徹到底不可能ニシテ又本邦ノミ留保スルコトモ却テ不利益ト思考セラルルヲ以テ本使ハ仏國ト共ニ調印セルニ付右ノ事情御了承ヲ請フ

三、十四日本會議ニ於テ「チャーチル」ハ米國要求ニ關シ英米間ニ困難アリタルニ茲ニ円満ナル解決ヲ得タルヲ喜ヒ今回ノ協定カ最初ノ數年間ニ於テハ一九二三年ノ協定ヲ実行スルヨリモ連合國ノ負担ノ輕キコトヲ指摘シ且ツ米國カ「ドーズ」案ノ實施ニ深く關係スルニ至リタルヲ慶賀シタルニ對シ米代表「クロッグ」ハ之ヲ謝シ「ドーズ」案ノ成功ヲ予言シ米國カ之ニ深甚ノ關係ヲ持ツニ至リタルコトヲ述ヘ欧州安定ノ速ナランコトヲ希望セリ仏白蔵相モ英蔵相ニ和シテ米國ノ「ドーズ」案参加ヲ賀シ殊ニ終リニ「エリオ」入場シテ一場ノ挨拶ヲ述ヘタル際「クロッグ」ノ國務卿新任ニ言及シテ欧州ノ困難ヲ熟知

スル同氏ノ就任ヲ慶賀セリ

在欧各大使、在米大使ニ暗送セリ

(別電)

一月十四日在仏国石井大使発幣原外務大臣宛電報第二三号
協定案中我方要求ニ基ツク条項

第二三号(別電) (一月十五日接受)

In respect of the railways and mines referred to in the second paragraph of Article 156 of the Treaty of Versailles Japan will be debited by the Reparation Commission in the interallied accounts only with the equivalent of compensation which has been or may be in fact paid by the German Government to its nationals for their interest.

Pending the establishment of the amounts in question Japan will be regarded as entitled to her full percentage of reparations as from first September 1924.

Ishii

五一 一月十四日 ドーズ年次金分配協定第十七条

ドーズ年次金ノ分配ニ関スル協定第三章第十
七条(訳文) 山東鉄道及ビ鉅山ニ対スル借記額

「ドーズ」年次金ノ分配ニ関スル協定(千九百二
十五年一月十四日)

第十七条

山東鉄道及鉅山ニ対スル借記額

「ヴェルサイユ」条約第五十六条第二項ニ掲クル鉄道及
鉅山ニ関シ日本国カ賠償委員会ニ依リ同盟国間ノ勘定ニ於
テ借記セラルル金額ハ独逸国政府ニ依リ同国ノ国民ニ対シ
其ノ利益ノ為事実上支払ハレタル又ハ支払ハルヘキ補償ニ
相当スル額ニ限ルモノトス該金額カ決定セラルルニ至ル迄
ノ間日本国ハ千九百二十四年九月一日ヨリ完全ナル賠償分
配率ノ支払ヲ受クヘキ權利ヲ有スルモノト認メラルヘシ

五二 一月十五日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

大蔵大臣會議ニ於テ調印サレタ協定ノ要領報

告ノ件

第二七号 (一月十六日接受)

大蔵大臣協定調印国ハ既報會議参加国ノ外伯刺西爾ヲ加ヘ

合計十三国本協定ハ五章ニ別レ二十八条ヲ有ス第一章「ド
ーズ」案年金処分方法ニ関スルモノニテ内第三条米国要求
ニ関スル協定要領左ノ通

一、占領軍費用償還ノ為一九二六年九月一日ヨリ始メ毎年
五千五百万金馬克宛目下賠償委員会ニ報告シタル金額ノ
完済迄之ヲ支払フ其ノ順位ハ交際費各種委員会費等ノ次
トシ右年金完済セラレサル年度ニハ残リヲ繰越シ四分半
ノ利息ヲ付ス

二、損害賠償ノ為賠償支払金額ニ対シ二分二厘五毛ノ分配
率ヲ認ム但シ年額四千五百万金馬克ヲ越ヘルヲ得ス

三、前記協定ノ条件トシ米国ハ次ノ三項ヲ承認ス

a、独逸ノ一九二三年以後ノ現金支払ニ対シテハ紐育
「レザープ」銀行仮寄託中ノ千四百七十万弗余ヲ直ニ
受取ル外要求セス

b、独逸以外旧敵国ノ賠償支払ニ対シ一九二三年ノ占領
軍費用協定ヲ適用セントス

c、本協定ヲ以テ前記協定ニ代フ

第六条白国優先権満足セラレシヤ否ヤハ「ルール」占領計
算完了ノ為不明ニ付不取敢第一年度ニ於テハ優先分配差引

二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 五二

額ニ対スル「スパー」分配率タル八分ヲ与フ、右優先権ハ
第二年度中ニ完了ノ見込其ノ上ハ白国分配率ハ四分五厘ト
ナリ差額ハ英仏兩國ニ於テ分配ス

第二章一九二三年九月一日以前ノ決算ニ関スルモノ「ル
ー」占領軍費条項ヲ含ム

第三章(脱) 協定適用ニ関スル特殊問題ニ関スルモノ第十
七条ニ往電第二三号山東価格ニ関スル条項アリ

第四章利息及未済債権ニ関スルモノ

第五章其ノ他ノ諸問題ニ関スルモノ内第二十三条勃牙利賠
償支払ニ関シ一九二六年末迄ニ於ケル支払ハ「スパー」協
定第二条ニ基キ分配ニ決ス、一九二七年以後ノ支払分配ノ
方法ハ連合国間ニ協定スヘシ

本協定ニ基キ本邦第一年度取り分ハ十億中外債元利償還八
千万各種委員会費二千七百万占領軍經費(一九二一年五月
一日以前ノ千五百万及第一年度ノ分一億六千万)ノ優先額
差引約七億一千八百万ヨリ更ニ米国損害賠償額(二分二厘
五毛)白国戦債償還(五分)及「レスティチュウション」
(一分)差引額ニ対シ「スパー」分配率ヲ適用スルコトト
ナルヲ以テ約四百九十四万金馬克トナル尚本協定ハ英仏両

五五

文ヲ正文トス

在歐洲各大使及在米大使へ郵報セリ

編註 在仏国石井大使發幣原外務大臣宛第二六号本電見当ラズ

五三 一月二十日 幣原外務大臣ヨリ
在仏国石井大使宛 (電報)

枢密院ニ対シ説明スベキ大蔵大臣會議協定ノ

批准不要ナル理由ニツキ意見照会ノ件

第二五号 (極秘)

貴電第二二号ニ関シ

枢密院ニ対シ批准不要ノ理由トシテ「ドーズ」年金中ニハ米國ニ対スル支払ヲモ包含スルコト明ニシテ右ハ既ニ倫敦協定ニ依リ賠償委員會及各關係國政府ノ承認シタルモノナル処新協定ハ右原則適用ニ関スル分配ノ手續ヲ定ムルニ過キスト説明スル考ノ処右説明差支ナキヤ尚他ニ適用ノ説明方法アラハ参考ト為ルヘキ事項ト共ニ併セテ回電アリ度シ

五四 一月二十二日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

枢密院ニ説明スベキ大蔵大臣協定ノ批准ヲ要

ス英國ハ主トシテ米國ノ賠償要求ハ「ドーズ」計画以外ナリト主張セルハ其一例ナリ
(四) 米國ハ一昨年ノ占領軍費協定ヲモ批准手續ヲ執ラサル積リナリシ位ニテ今回ノハ勿論批准ヲ要セスト公言シタリ
(四) 此大勢ニ対シ我方而已留保スレハ独リ取殘サレ一昨年ノ米國占領軍協定ノ際ノ如ク調印國ヨリ洩ルル危険アル而已ナラス本邦染料取得ニ関シ賠償委員會内ニテハ「ドーズ」年金ノ日本ニ対スル配当少ナカルヘキヲ予想シ対独注文額ノ増加ヲ渋リ勝ちナリシヲ以テ山東鐵道鉅山ニ関スル我主張ヲ承認シタル今回協定ニ由リ本邦カ十分ノ配当ヲ得ルニ至リタルコトヲ同委員會ヲシテ納得セシムル必要アリ旁々本使ハ直ニ調印シタル次第ナリ

五五 一月二十六日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛

ドーズ案第一年度年金分配概算表送付ノ件

付屬書

一月二十一日賠償委員會經理部長發日本代表團事務総長宛書簡寫

右第一年度年金分配概算表送付ノ件

公第七〇号 (三月十二日接文)

二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 五五

セザル理由ニツキ意見申進ノ件

第三四号 (極秘) (一月二十三日接受)

貴電第二五号ニ関シ

(一) 本使ハ枢密院ハ批准ヲ要スル条約ナレハ批准前ニ又批准ヲ要セサル条約ナレハ其調印前ニ諮詢ヲ受クルノ權ヲ主張スルニ過ギサルモノト思考シ居タリ

(二) 故ニ今回協定ハ調印前諮詢ヲ經ルノ違ナカリシ事由即チ六國間ノ内協議濟ミ次第突嗟ノ間ニ調印ニ迄進マサレハ議論百出纏ラサルヲ見越シ殊更ニ急進シタル事情ヲ御説明アレハ足ルコトト思惟シタリ

(三) 若シ然ラスシテ枢府ハ何故ニ本件ニ批准ヲ要スル形式ヲ執ラサリシヤニ付説明ヲ求ムルモノトセハ往電第二二号ノ二英國藏相主張ノ如ク本件ヲ十數國ノ批准機關ニ掛ケラレテハ何時実行セラルルヤ見当付カス斯クテ幾十億ニ上ル大金ヲ永ク空ニ迷ハシメ經濟復興ヲ遲延セシムル結果トナルトノ重大ナル理由ノ前ニ批准方ヲ提議セル日本モ對議會策上署名延期ヲ主張セル仏國モ一步ヲ譲ラサルヲ得サリシ事情ヲ説明ナサルル方可然キカト存ス

四御來示ノ説明振リハ必スシモ各國ノ承認セル議論ニアラ

大正十四年一月二十六日

在仏

特命全權大使子爵 石井 菊次郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ドーズ案實施第一年度年金分配概算表送付ノ件

「ドーズ」案第一年度年金十億麻克ヲ巴里大蔵大臣協定ニ依リ分配スルトキ各國取得分概算額表賠償委員會會計部ヨリ送付有之候ニ付右及送付候条御査閱相成度此段申進候 敬具

(付屬書)

一月二十一日賠償委員會經理部長發日本代表團事務総長宛書簡寫

ドーズ案第一年度年金分配概算表送付ノ件

COMMISSION DES REPARATIONS

Service de la Comptabilité

Paris, 21st January, 1925.

To: The General Secretary of Japanese Delegation.

Subject: Distribution of the 1st German Annuity.

I beg to send you herewith, for information, a

五六 二月十二日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛

ドーズ年金分配ニ関スル財政協定中山東譲渡
財産ニ関スル条項成立経過報告ノ件

付属書 一月十四日調印財政協定第十七条（山東鉦山鉄
道ニ関スル条項）ニ関スル報告

機密公第一九号

（三月二十四日接受）

大正十四年二月十二日

在仏

特命全權大使子爵 石井 菊次郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ドーズ年金分配ニ関スル財政協定中山東譲渡財産

ニ関スル条項成立経過報告ノ件

本年一月七日ヨリ当地ニ於テ開会セル連合国大蔵大臣會議
ノ結果一月十四日調印セル「ドーズ」年金分配ニ関スル連
合国財政協定ノ成立ニ関シテハ當時其ノ要点及電報置候処
本邦ニトリ最關係深キ同協定第十七条山東鉄道鉦山ノ価格
借記ニ関スル条項ノ成立経過報告別添ノ通り及送付候御査

權利ハ之ヲ留保シタリ

然ルニ其ノ後賠償委員會財政部ハ山東財産ノ価格ヲ決定の
ニ本邦ニ借記セシムルコトニ勉メ其ノ意見ハ種々ノ報告ニ
散見セラルル所ナルカ若シコノ財政部ノ主張ニシテ採用セ
ラレンカ本邦ノ配当額カ比較の少額ナルニ顧ミ本邦ハ賠償
勘定ニ関スル限り大負債国トナリ将来ノ「ドーズ」年金分
配上大ニ不利益ナル地位ニ立ツコトナルヲ以テ今回ノ蔵
相會議ニ於テモ日本ノ要求ノ骨子ハ本件ノ解決如何ニアリ
シ次第ニシテ若シ本邦ノ主張通り山東譲渡財産ノ価格ハ独
逸ノ其ノ国民ニ対スル支払ノナキ限り本邦ノ借方ニ記入セ
サルコトヲ承認セラルルニ於テハ「スパー」率丈ハ充分二分
配ニ与ルコトヲ得ル結果トナレルモノナリ而シテ大蔵大臣
會議ノ準備會議タル専門家會議ニ於テ一九二四年九月一日
ニ於ケル各国賠償貸借勘定ヲ法定スル為メ貸方及借方ニ掲
上スヘキ項目ニ関シ英仏委員ヨリ種々提案アリタル際何レ
モ其ノ用語上山東財産ハ将来ノ「ドーズ」年金分配ニ関ス
ル限り之ヲ当該国ノ既得賠償収入ト看做ササルモノト解シ
タルヲ以テ強テ本件ヲ問題トスル必要ナシト思考セル処其
ノ後會議進捗シ蔵相會議ニ提出スル報告案トシテ仏国委員

二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 五六

閱相成度此段申進候

六〇

敬具

（付属書）

一九二五年一月十四日調印財政協定第十七条（山東鉦山鉄道
ニ関スル条項）ニ関スル報告

「ヴェルサイユ」条約第五百六条第二項ニ依リ本邦ノ
取得セル山東ノ鉄道及鉦山ノ性質ニ関シテハ対独条約締結
ノ當時ヨリ本邦側ハ其ノ公有財産タルコトヲ主張スルニ対
シ独逸側ハ之ヲ以テ私有財産ナリトシ從テ右財産ハ賠償金
ノ一部ニ充テラルヘキモノナルコトヲ主張シテ本邦ノ要求
ヲ争ヒタルカ結局議定書第二項ヲ以テ独逸国カ山東鉄道及
鉦山ニ付独逸国民ノ有スルコトアルヘキ利益ニ対スル補償
トシテ之ニ支払フヘキ金額ノミ賠償トシテ独逸ニ貸記スル
コトトセリ

爾来本邦政府ハ常ニ右条項ニ基キ其ノ見解ヲ支持シ曩ニ山
東譲渡財産価格ヲ五千九百万馬克ニ評價スルコトニ同意セ
ル際ニ於テモ將又其ノ後賠償委員會カ一九二二年七月二十
五日ノ決議ヲ以テ山東財産ノ価格ヲ本邦ニ借記スルコトニ
決定セル場合ニ於テモ本邦側ハ議定書第二項ニ基ク本邦ノ

ヨリ提出セルモノヲ見ルニ從來ノ連合国間協定ニ依リC証
券ヲ以テ処分スルコトニ決定セルモノヲ除キ独逸ヨリ受ケ
タル支払ノ全部ト賠償、占領軍費用等トシテ当該国ノ受領
スル權利ヲ有スル額トノ差ヲ一九二四年九月一日及其ノ後
毎年度ノ終ニ計算シテ各国ノ貸借対照表ヲ作ルコトナリ
タルヲ以テ（専門委員會報告二四頁第五章ノ二参照）本邦
委員ヨリC証券云々ノ箇所ヲ從來英仏両委員會カ使用シタル
Distribution account ナル文字ヲ用ヒテ山東譲渡財産ヲモ
除外例中ニ包含セシムル意味ノ修正案ヲ提出セル処意味明
瞭ヲ欠クトテ反対セルヲ以テ日本委員ハC証券ニ依リ処分
セル財産同様山東譲渡財産モ日本ノ借記ニ包含セラレサル
モノト思考スル旨留保セリ然ルニ翌日専門家會議最終日ニ
至リ仏国委員ヨリ本件研究ノ結果山東財産モ「ザール」炭
山上海沙面等ノ財産同様ニ取扱フヘキモノト考フルヲ以テ
日本委員ノ意見ニ賛成シ難キ旨反対留保シ他国委員モ之ニ
倣ヒタルカ同日ハ既ニ「クリスマス」ノ前日ニテ時間ノ余
裕モナカリシカ故ニ討論ヲ避ケ報告ニハ日本及他ノ委員双
方ノ意見ヲ留保スルニ止メタリ

大蔵大臣會議ハ一月七日仏国外務省ニ於テ小国代表者ヲモ

六一

加へ開カレタルカ翌八日仏蔵相官房ニ於テ仏、英、伊、白、米、日代表者ノ非公式会合アリ會議ノ進行方法トシテ主タル利害關係國間ニ予メ非公式交渉ヲ進メ其ノ結果ヲ本會議ニテ議スルコトニ申合アリタルカ其ノ際石井大使ヨリ山東ノ鐵道鉅山ニ關スル本邦ノ主張ヲ説明シ尚翌日別紙ノ如キ覚書ヲ五國ノ首席代表ニ送リテ研究ヲ求メタリ此間英國側ノ一専門家開場委員ヲ訪問シ妥協案トシテ左ノ通申出タリ

Japan should be debited in respect of the Shantung Railways and Mines with an amount sufficient to cover her reparations and non-reparation claims up to 1st September, 1924, and the balance of any credit given to Germany should be written off against C bonds. This would enable Japan to retain her full share in the Daves Annuities without deduction.

右案ニ依レハ本邦ノ一九二四年九月一日ニ於ケル債權(賠償委員會ノ仮計算ニ依レハ約千三百万金麻克)ヲ山東財産価格ノ一部ヲ以テ全然消滅セシムル結果トナリ議定書第二

業ト認メ戦利品扱ヲ為ササルコトニ同意セリ日本政府ハ独逸ノ斯ル補償支払ノミヲ以テ其ノ政府事業ニアラスシテ私的事業タルコトヲ立証スル唯一ノ証拠ト思惟ス

且日本政府ハ山東鐵道鉅山ノ価格ヲ誇大的数字ナリト思考シタルニ拘ラス五千九百万ト評価スルコトニ同意シタルカ其ノ後独逸カ補償支払ヲ実行シタルコトヲ聞カス然ルニモ拘ラス日本カ山東讓渡財産ノ価格ニツキ幾何ナリトモ借記セラルル理由何処ニアリヤ独逸ノ補償支払ナキ限り日本ハ「ヴェルサイユ」議定書ニ依ル其ノ權利ヲ主張セサルヲ得ス云々

ト述ヘタルニ英蔵相「チャーチル」氏ハ部下ノ専門委員 Leith-Ross 氏(賠償委員會財政部英國委員ニシテ本件ニ關シ最精通セル人)ヲシテ代言セシメ本件ハ既ニ賠償委員會ニ於テ日本ニ借記スルコトニ一度決定シ其ノ際ニハ日本委員モ列席シタル次第ニシテ山東ノ讓渡財産ヲ日本ノ收入ヨリ全然除外スルコトハ公平ニ非ストテ前記開場委員ニ内示セル案ヲ提出シタルヲ以テ石井大使ハ山東鐵道ノ如キ種類ノ企業ハ屢私企業ト称セラルルモ実ハ公企業ナルコト多シ

項ニ依リ本邦カ主張スル權利ノ一部ヲ放棄スルモノナルニ付同意スルヲ得ス十日午後大蔵大臣官房ニ於ケル非公式会合ニ於テ仏蔵相「クレマンテル」氏ヨリ最初ニ本邦ノ要求ノ説明ヲ求メラレタルヲ以テ石井大使ハ

日本ノ立場ハ簡單明瞭ナリ日本ハ独逸カ利害關係アル其ノ國民ニ補償トシテ支払ヲ為シタルニ非レハ山東ノ鐵道鉅山ノ価格ヲ独逸ヨリ受ケタル賠償支払中ニ決定的二包含セシムヘキニ非スト主張スルモノニシテ右ハ「ヴェルサイユ」議定書ノ明白ニ規定セル所ヲ要求スルニ過キス元來此議定書第二項ノ成立ノ理由ヲ知ル為ニハ沿革的の説明ヲ必要トス一九一四年日本軍カ青島ヲ占領スルト共ニ山東ノ鐵道及鉅山ハ戦利品トシテ日本ノ手ニ墜チタルモノニシテ之ヲ如何ニ処分スルカハ日本ノ自由タリシナリ蓋シ独逸ハ右鐵道鉅山カ私的企業ナルコトヲ主張スト雖吾人ハ其ノ政府事業タリシコトヲ確信スル充分ノ理由アリタレハナリ

然レトモ或中立國人及連合國人カ右事業ニ利害關係ヲ有シタリシ事情ニ鑑ミ日本ハ妥協ノ精神ヨリ独逸カ利害關係者ニ補償ヲ実行シタル限度ニ於テハ之ヲ私的企

例ヘハ東支鐵道ノ如キ旧露国帝政政府ハ常ニ之ヲ以テ私企業ナリト称シタルモ過激派政府ハ之ヲ国有財産トシテ取扱ヒツツアルニ非スヤ山東鐵道ノ如キモ性質上公企業ナリト信スルモ讓歩シテ私企業タル証拠ノアル限り其ノ価格ヲ賠償勘定ニ繰入ルルコトヲ承認セルニ過キス然ルニ独逸カ一文モ其ノ國民ニ補償ヲ実行セサル今日之ヲ日本ノ賠償借記トスルコトハ認ムルヲ得スト反駁ヲ加ヘタル結果英國側モ更ニ讓歩シテ

Japan will be debited by the Reparation Commission in the inter Allied accounts only with the equivalent of the sums paid or to be paid by Germany to its nationals for their rights and interests in the Shantung Mines and Railways. Pending definite informations as to the amounts so paid, Japan will be regarded as entitled to her full percentage of reparations as from 1st September 1924.

ナル案ヲ提示シタルヲ以テ to be paid トハ将来實際ニ支払ハレタル額ヲ指スモノナルコトヲ確メ又此案ノ意味スル

二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 五七

所ハ日本ヲシテ一九二四年九月一日ニ於ケル未済債権ヲ拋棄セシムルニ非ス一時 suspense ニ置クモノナリトノ説明ヲ得且今回ノ協定ニ於テ未済債権ノ充足ハ頗ル緩慢ナル方法ニ依ルコトナリタルニ顧ミ本邦未済債権ノ主義上認メラルル限り一時之ヲ中止スルモ實際上日本ノ受領スヘキ「ドース」年金額ニ影響微少ナリト思考シタルヲ以テ英蔵相ノ提案ニ同意ヲ与ヘタリ

協定ニ採用セラレタル条文ハ前記ノ非公式会合ニ於テ了解ヲ得タル案ニ基キ主トシテ英国側委員ト本邦側委員トノ間ニ交渉ノ結果先英文ニテ起草シ後仏訳シタルモノナリ石井大使ハ一月十四日最終ノ本会議ノ席上ニ於テ挨拶ヲ述フルト共ニ山東ニ関スル条項ニ関シ日本ノ賠償勘定ニ借記セラルルハ独逸方實際ニ補償ヲ支払ヒタル場合ニ限ルコト又本条項ハ一九二四年九月一日ノ日本ノ賠償債権ニ Prejudice ヲ及ホサルコトト了解スル旨議事録ニ止メ度キ旨陳述シ置キタリ

五七 八月十四日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛

「ドーズ案」第一年度年金分配額変更ニ関スル説明書

Annex 2558 A.

REPARATION COMMISSION.

Accounting Section.

60/P/3.

Paris, 23rd June, 1925.

Distribution of the First Annuity under the Experts Plan.

To: The General Secretary—

The Accounting Section begs to enclose herewith 2 statements relating to the distribution of the 1st Annuity payable by Germany under the Experts Plan.

Statement 1. This statement shows a revision of the distribution sent with my letter of 21st January 1925, as a result of certain modifications which have been made since that date in the following two items:—

1) New amount allocated to the German Loan in

二 「ドーズ案」ニ基ツク年次支払問題 五七

六四

ドーズ案第一年度年金分配額変更ニ関スル件

付屬書

六月二十三日賠償委員会経理部長發代表団事務
総長宛書簡
右第一年度年金分配額変更ニ関スル説明書

公第五四七号

大正十四年八月十四日

在仏

特命全權大使子爵 石井 菊次郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

ドーズ案第一年度年金分配額変更ニ関スル件

ドーズ案第一年度年金ノ使途並金額ニ関シテハ曩ニ公第七〇号 (本年一月二十六日付) 其他ヲ以テ報告ニ及ヘル如ク、本邦割当額ハ大約四百九十四万四千八百金麻ト概算セラレタル処其後該金ヨリ優先的ニ支払ハルヘキ (一九二四年外債元利支払費) 一九二一年五月一日以前占領軍經費トシテ英仏兩國ニ分配セラルル金額増加シ從ツテ本邦割当額モ約四百九十八万七千八百六十六金麻トナレリ賠償委員会経理部説明書 Annex 2558 A 送付ス

(付屬書)

六月二十三日賠償委員会経理部長發代表団事務総長宛書簡

accordance with a letter forwarded to the Accounting Section by the Agent General.

2) Reduction in the amount set aside for the arrears of the costs of the Armies of Occupation prior to the 1st May 1921 as a result of payments amounting in all to G.M. 3,750,000 made to France and Great Britain in respect of cash received after 14th January 1925 otherwise than under the Experts Plan.

Statement 2. This statement shows the distribution of the Annuity by Powers and by nature of claims. It will be observed from this statement that the distribution between the Powers in respect of the sum of G.M. 7,237,839 allocated to "Restitutions" has been made in accordance with the percentages shown in schedule A, Annex 2340 A, the consideration of which Annex has been adjourned by Decision 32 of the Permanent Managing Committee. Should, however, the percentages shown in schedule B of the aforesaid Annex be adopted the distribution

六五

would require to be modified.

It is pointed out that the distribution coincides with that shown in Document III of the Agent General's Report of the 30th May 1925 (Annex 2520 A) the Agent General's figures, however, having been rounded to the nearest thousand of gold marks. The figures concerning distribution will not be subject to modification until the necessary sums for the German Loan and the expenses of the various commissions (R.C. and Experts Plan, I.A.R.H.C.—C.C.) have

been definitely settled, that is to say, about 1st September.

It is suggested that, pending the establishment of the definite distribution, the attached statements meantime be submitted to the Permanent Managing Committee as showing the provisional position in accordance with the latest information available.

(Signed) L. JAILLET
ACCOUNTANT GENERAL.

Annex 2558 A.
Statement No. 1

Reparation Commission
General Secretariat-Accounting Section

PROVISIONAL DISTRIBUTION OF THE 1ST GERMAN ANNUITY.

after giving effect to payments made by the R. C. to France and Great Britain on account of pre-1st May 1921 Army Costs as provided in Art. 21 of the 14th January 1925 Agreement.

	G. M.	G. M.
First charge		
Art. 1, § A	Service of German Loan, 1924 (from 15/10/24 to 31/8/25)	77,500,000
Agreement of	Expenses of R. C. (including the organisations set up under the Dawes Plan)	9,250,000

14/1/25			
Art. 1, § B	Charge for I. A. R. H. C.	10,000,000	
Art. 1, § C	Compensation due to European Commission of the Danube (Gold frs. 266,800)	8,000,000	
Art. 9	Discharge of arrears due to France and Great Britain on account of costs of Armies of Occupation pre-1st May 1921	216,100	
Art. 21	Less : Payments by R. C. a) to France 2,137,500 b) to Great Britain 1,612,500	11,250,000 160,000,000	
Art. 2, § A	Current expenses of Armies of Occupation		198,716,100
Art. 4, § A	Belgian War-Debt 5 % of 723,783,900 (1,000,000,000—276,216,100)	36,189,195	276,216,100
Art. 5, § Aa	Restitutions (1 % of 723,783,900)	7,237,839	43,427,034
Art. 5, § B	Total of Priority Charges United States claim : 2.25 % of 680,356,866 (1,000,000,000—319,643,134)		319,643,134
			15,308,029
			334,951,163
Art. 1 of Spa Agreement amplified by	Great Britain—22 % of 665,048,837	146,310,744	
Art. 7, § SA&B of	France —52 %	345,825,395	
Paris Agreement	Italy —10 %	66,504,884	
	Japan —0.75 %	4,987,866	
	Belgium —8 %	53,203,907	
	Portugal —0.75 %	4,987,866	
	Greece —0.40 %	2,660,196	

二 年一 案ニ基ツク年次支払問題 五七

六八

of Roumania — 1.10% —
14/1/25 Serb-Croat — 5% —
Slovene State

Total of 1st Annuity as fixed by Experts Report

7,315,537
33,252,442
665,048,837
1,000,000,000

§ — Part of the share of France, viz. 30 million G. M. will be transferred to Belgium in accordance with the Agreement passed between the two Governments (see st. No. 2)

PARIS, 20th June, 1925.

L. JAILLET
ACCOUNTANT GENERAL

Annex 2558 A.
Statement No. 2.

PROVISIONAL DISTRIBUTION OF 1ST ANNUITY—TOTAL SHARES OF THE POWERS.

POWERS	Arrears due on Account of Army Costs.	Current expenses of Armies of Occupation	Belgian Debt	Restitutions	Claims of the United States	Reparations and additional Army Costs	Total Shares
1 United States	—	—	—	—	15,308,029	—	15,308,029
2 Great Britain	4,837,500	25,000,000	15,199,462	53,560	—	146,310,744	191,401,266
3 France	6,412,500	110,000,000	16,647,030	5,154,427	—	(345,825,395) (Dr. 30,000,000)	454,039,352(x)
4 Italy	—	—	—	47,553	—	66,504,884	66,552,437
5 Japan	—	—	—	—	—	4,987,866	4,987,866
6 Belgium	—	25,000,000	4,342,703	1,736,647	—	(53,203,907) (Dr. 30,000,000)	114,283,257(x)
7 Portugal	—	—	—	—	—	4,987,866	4,987,866
8 Greece	—	—	—	—	—	2,660,196	2,660,196
9 Roumania	—	—	—	125,142	—	7,315,537	7,440,679

10 Serb-Croat-Slovene State.	—	—	—	47,553	—	33,252,442	33,299,995
11 Poland	—	—	—	72,957	—	—	72,957
	11,250,000	160,000,000	36,189,195	7,237,839	15,308,029	665,048,837	895,033,900

(x) The French Claim for "Reparations" has been reduced by 30 million G. M. which amount has been attributed to Belgium in accordance with the provisions of Annex 2301 A, approved by R. C. Decision No. 3111.

Service of German Loan 1924 77,500,000
Costs of Commissions 27,250,000
Danube Commission 216,100
TOTAL G. GM. 1,000,000,000

五八 八月二十八日 在仏国松島臨時代理大使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

第二年度ドーズ年金分配案ニヨル本邦ノ受領額ニ関スル件

第三〇九号

(八月二十九日接受)

賠実第四二八号

貴信第一三八号ニ関シ賠償支払管理人ニ於テ作製セル第二年度「ドーズ」年金分配案ニ依レハ本邦受領額ハ六百三十三万五千「マーク」尚賠償支払管理人ハ実物弁済ヲ円滑ナラシメンカ為月賦制度ヲ採用シ各債権国ニ対シ月割額以上ノ支払ヲ求メサルコトヲ希望ス但シ各種ノ収入ニ付各關係債務者ト協定ノ結果債権国ニ対スル分配ハ各月均等トナラ

二 ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 五八 五九

ス本邦月割受領額ハ九月四十四万「マーク」十月四十六万「マーク」十一月四十六万「マーク」ナリ

五九 九月九日 在本邦独国大使ヨリ
出淵外務次官宛

山東鉄道及ビ鉱山ノ補償問題ニ関スル件

独逸政府ハ山東鉄道会社ノ賠償問題ニ関シ、近ク日本帝國政府ト交渉再開ノ意圖ヲ有スル処同交渉ノ開始ニ先チ今日マテ問題ノ解決ヲ困難ナラシメタル事実ニ付キ非公式ニ大体ノ経過ヲ述ヘ如何ニセハ問題解決ノ見込アリヤニ就キ愚見ヲ開陳スルヲ妥当ト考フ小生ノ提案ヲ吟味セラレ個人トシテ同提案ヲ如何ニ御思考セラルルヤヲ回報セラルルナラ

六九

ハ幸甚ナリ

山東鉄道ハ「ヴェルサイユ」条約第五百六条第二項ニ依リ日本ニ帰属スルコトナリタルカ同鉄道ニ關スル賠償問題ヲ議スルニ當リ先決問題トシテ明白ニナシ置ク必要アル点ハ同鉄道ニ對シテ有スル独逸側ノ權利カ独逸人ノ私有財産ナリヤ將又独逸帝國ノ財産ナリヤナリ日本國政府ハ最初第二ノ見解ヲトリ居ラルルモノノ如ク見エタルカソノ後同鉄道及ヒ付屬物ハ「公共的性質ヲ有スル財産」ナリ但シ公共的財産トハ必スシモ独逸政府ノ所有スル財産ト云フノ意味ニ非ストナスニ至レリ（一九二二年六月八日付屬独逸大使館宛日本外務省覺書、亜細亞第一課、機密信、第七十号参照）

右ニ拠ツテ之ヲ觀ルトキハ日本政府ハ山東鉄道ヲ以テ私有財産ト認ムルモノニシテ唯々独逸政府ノ管理權及ヒ其他ノ權限ニヨリ制限ヲ受ケ從ツテ其ノ經濟的價值ヲソレタケ減セルモノトナシ居ラルルモノナリ

独逸側ノ見解ハ山東鉄道ヲ以テ完全ナル私有財産ナリトナスニアリ而シテ日本政府ノ見解ハ價值ヲ減セル私有財産ナリトナスニアリ而シテ此見解ノ相違ハソノ後鉄道ノ評價ニ

能ハサル次第ナリ

右ノ規定ハ一見何等ノ不都合無之山東鉄道ノ場合ニ於テハ独逸政府カ鉄道ノ賠償トシテ國民ニ支払フ額ハ一般賠償支払ノ内ヨリ控除サルル訳ニアレトモ實際問題トシテハソレ程簡單ナラス「ドース」案ニヨレハ独逸ハ毎年一定ノ額ヲ連合國ニ支払フコトナリ居レリ然ルニ今若シ独逸政府カ山東鉄道ノ關係者ニ賠償ヲ支払フコトナレハ日本トシテハ「ドース」案ニ依リ毎年受取ルヘキ額ノウチヨリ之レタクノモノヲ引去ラルルニ過キサルモ独逸トシテ支払フヘキ年額ハソノ為メニ毫モ減セラレス独逸トシテハ既定ノ年額ヲ全部支払フコトナルカ故ニ独逸政府ハ山東鉄道關係者ニ支払フ額ヲ加ヘテ「ドース」案ニ依ル年額ヲ調達セサルヘカラサル次第ニテ議定書第二項ノ規定アルニ拘ラス独逸ニ取リテハ負擔ノ重課トナル、尊敬スル出淵氏ノ御承知ノ如ク「ドース」案規定ノ支払ヲ果シテ独逸カ支払ヒ得ルヤ否ヤ支払ヒ得ルトシテモソレカドレ丈続クヤハ独逸政府ノ懸念措ク能ハサル所ナリ此ノ如キ時ニ當リ独逸政府カ山東鉄道ノ賠償支払ノ為メ多額ノ資本ヲ自ラノ手ニテ調達スルコトハ不可能ナリ独逸政府ハ「マルク」下落當時則チ「ド

關シ交渉ノ開カレタルトキニ明白トナレリ則チ独逸政府ハ九千百万金「マルク」ト算定シ日本政府ハ五千九百万ト評價セリ

然レトモ山東鉄道カ私有財産ナリヤ否ヤノ問題ヲ再論スルハ小生ノ目的ニアラス茲ニ之ヲ問題トセルハ私有財産ナリヤ否ヤカ問題ノ出発点トナリ居ルコトヲ明カニスルカ為ニ外ナラス小生ハ此ノ書翰ニ於テ全然日本政府ノ見解ヲ本トシテ論歩ヲ進ムルモノナリ日本側ノ見解ニヨレハ日本カ山東鉄道ヲ五千九百万金「マルク」ト評價シ之ヲ被収用者ニ支払ヘハ足ル独逸側ノ評價トノ間ニ存スル三千二百萬金「マルク」ノ差額ハ畢竟山東鐵道会社カ負擔シテ然ルヘシ敵國ニアリシ私有財産及割讓地ニアリシ私有財産ハ何レモ同様ノ運命ニアリシニ非サヤト蓋シ交渉ノ難点ハ此ノ点ニアリ

「ヴェルサイユ」条約議定書第二項ニハ独逸國カ鐵道及鉱山ニ付独逸國民ノ有スルコトアルヘキ利益ニ對シ補償トシテ之ニ支払フヘキ金額ハ賠償ノ名義ノ下ニ同國ノ貸方ニ之ヲ記入ストアリ從テ独逸政府カ右補償ヲ實際國民ニ支払フニ非サレハ賠償名義ノ下ニ独逸ノ貸方ニ記入セラルルコト

「ドース」案成立以前山東鐵道会社ニ賠償ノ一部支払トシテ紙幣「マルク」ニテ二十八億五千万「マルク」ノ支払ヲ為シタリ之ヲ金貨「マルク」ニ換算スレハ十一万八千「マルク」ニ相當シ会社ノ受取リタル額ハ云フニ足ラス程少額ナリ而モ独逸通貨安定シ且「ドース」案ニ依リ支払フ年額ヲ課セラレタル今日ニ於テハ政府ヨリ会社ニ此ノ上賠償ヲ支払フコトハ自ラ不可能ナリ

要スルニ事態ハ次ノ如シ則チ日本政府自ラ何等ノ支払ヲモ為サス然レトモ独逸國ニシテ直接賠償支払ヲナシタルトキハソレタケ賠償勘定ヨリ控除ヲナスニ異議ナシ（其ノ控除ハ独逸國ニ利益ヲ齎スコトナシ）而シテ其ノ控除ハ独逸國ニ何等利益ヲ齎スコトナキヲ以テ独逸國ハ支払フコトヲ得サルモノナリ

右ノ「デレンマ」ヨリ遁レ出ツル途ノ発見セラレサル限り日本カ何等ノ代償ヲ支払ハスシテ山東鐵道及鉱山ヲ所有シ之ヲ四千万円ニテ支那ニ讓渡セルコトハ不当トセラルヘク世界ノ注意ハ遠カラスシテ日本カ何等ノ代償ヲ支払ハス支那ト独逸トヲ犠牲トシテ山東鐵道ヨリ利益ヲ得タルノ事實ニ向ケラレ輿論ノ圧迫ノ向フトコロ将来賠償問題ヲ論スル

ニ当リ山東鉄道ノ処分カ独逸賠償支払ニ対スル不当ナル勘定ノ教材トシテ引用セラルルコトモ絶無ニハアラス
日本政府ハ山東鉄道及鉅山ヲ以テ完全ナル私有財産トハ認めサルモ制限セラレタル私有財産トシテ五千九百万金「マルク」ノ評価ヲ認ムルモノナリ從テ若シ山東鉄道会社カ日本領土内ニアル他ノ私有財産ト同様ノ取扱ヲ受クルモノトセハ日本政府ハ之ヲ清算ニ付シ売上高ハ他ノ清算ノ売上ニ対スルト同様ノ原則ニヨリ処分サレシナラン即チ山東鉄道会社ハソレニヨリ五千九百万金「マルク」ノ少クモ七割約四千二百万金「マルク」ヲ返還サレタリシナラン小生ハ山東鉄道ノ賠償ニ関シ仮ニ例ヲ清算ニトレリ乞フ暫ク清算ノコトニ付述ヘム旧敵国タリシ多クノ諸国トハ異ナリ日本ハ講和条約ニヨリテ与ヘラレタル独逸人財産ノ清算及抑置ニ対スル權利ヲ自ラ率先シテ之ヲ制限シ清算ノ売上ヨリ日本側ノ請求額タケヲ引去リ残りハ悉ク之ヲ所有者ニ返還セラレタリ日本ハ敵ノ屈伏ニ乗シ不当ノ利ヲ貪ラストノ国民的伝統ニヨリ敵ヲ犠牲トシテ自ラヲ富マスノ念ヲ放棄セリ小生ハ日本ノ偉大ナル過去ノ遺産タル此ノ騎士の精神ヲ信スルニヨリ日本政府ニシテ「ヴェルサイユ」条約ノ規定カ賠償問題ノ展開ニヨリソノマモノ適用ニ不都合ヲ生シ鉄道賠償問題モ条約ニ規定セラレ居ル方法ニテハ解決困難トナレル事実ヲ認ムルニ至レハ必スヤ山東鉄道問題ノ解決ニ新ナル考慮ヲ加ヘ鉄道会社ヲシテ不満ナカラシムルモノト確信ス

山東鉄道賠償ノ方法ハ種々アリ以上述ヘ来リタルトコロニヨリ貴下ハ既ニ小生ノ考案ヲ御了察ノコトト思料セラルルカ日本政府ニシテ山東鉄道会社ニ賠償ヲ支払ハントセハ凡ソ三種ノ財源アリト思惟ス
一、ドーズ案ニヨル独逸ノ賠償支払ニ対スル日本ノ取分少クトモ独逸政府カ山東鉄道会社ニ實際直接ニ支払フヲ得ハ日本ノ受取ルヘキ賠償年額ヨリ控除サルル金額
二、四千万円ノ支那国政府証券即チ満期ノトキノ元金
三、山東鉄道ノ収入ヲ担保トシ日本政府ニ支払ハルル右三個ノ財源中一個ノミヲ取ルカ或ハ三個トモ併セ用イルヤハ後日ニ委スヘキモ鉄道賠償ノ根本問題サヘ決定セハソノ方ハ容易ニ解決セラルヘシ

遠カラス御消息ニ接シ度シ

一九二五年九月九日

東京ニテ ゴルフ

出淵殿

(欄外註記)

「ゴルフ」大使「日本官ニ向テ本件ハ本国ノ訓令ニ依ルモ無理ト思ハルル点モアリ」「私信」体トナセリト内話セリ 出淵

六〇 十月七日 在仏国石井大使ヨリ
幣原外務大臣宛

山東鉄道及ビ鉅山会社ノ補償金ニ関スル件

付屬書一

五月四日独逸戦争債務委員会発賠償委員会宛

書簡(英訳文)

山東鉄道及ビ鉅山会社ノ補償金ニ関スル件

二

五月七日賠償委員会発独逸戦争債務委員会宛

書簡

右補償金ニ関シ更ニ情報提供方依頼ノ件

公第六四四号

(十一月十六日接受)

大正十四年十月七日

在仏

ニ ドーズ案ニ基ツク年次支払問題 六〇

特命全權大使子爵 石井 菊次郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

山東鐵道会社補償金ニ關スル件

山東鐵道会社ニ對スル独逸政府ノ補償金額ニ關シ賠償委員
會ヨリ屢々 Kriegslastenkommission ニ照会シタル結果独
逸政府ハ紙幣麻及大藏証券ヲ以テ別紙ノ通り補償ヲ為セル
コト判明セルモ現在迄ノ文書ニ依レハ其ノ金貨価格不明ナ
ル為目下ノ所ハ全ク支払無キモノト看做シテ「ドーズ」年
金ノ分配ヲ為シ居ル処賠償委員會在伯林事務所ニ於テ調査
ノ結果補償額ヲ金貨ニ評価スルコトヲ得ルニ至ル場合ニハ
一九二五年一月十四日協定第十七条ニ鑑ミ年金額變更ノ問
題ヲ生スヘキニ付右御含置相成度シ
關係書類別紙目錄ノ通送付ス

(付屬書一)

五月四日独逸戦争債務委員會発賠償委員會宛書簡 (英訳文)
山東鐵道及ニ鈺山会社ノ補償金ニ關スル件

DEUTSCHE KRIEGLASTENKOMMISSION.

Nr. K. 887.

Translation.

PARIS, the 4th May, 1925.

十四

Finance Section,

Rec'd 5 Mai, 1925.

C.R.

Arrivé le 4 Mai 1925.

N° 13/125.

In reply to the letter of the Reparation Commis-
sion N° 13/125 of February 17th 1925 I have the
honour to transmit you the following information:

The Shantung Railway and Mines Company has
not yet received a definite indemnity for the losses
it has suffered. This state of affairs has induced
the German Government to refrain so far from a
communication to the Reparation Commission about
the settlement of the indemnity.

Under the present legal provisions the Company
has received until now from the Reich 2,850,000,000
paper marks of the indemnity due to it. This amount
has been paid partly in cash, partly in Treasury
bonds. 5 million paper marks in cash have been

paid on the 26th April 1921 as well as on the 25th
January 1922. The rest of 2,840 million paper marks
has been paid by order dated the 6th March 1923
in form of Treasury bonds of a nominal value of

2,840 million paper marks plus an addition of 4% till
the date of maturity of the bonds. These bonds do
not bear interest. They fall due:

a) 1 year after the 1st December 1922			100,000,000 paper-marks
2	"	"	125,000,000 "
3	"	"	65,000,000 "
4	"	"	65,000,000 "
5	"	"	65,000,000 "
6	"	"	115,000,000 "
7	"	"	115,000,000 "
8	"	"	120,000,000 "
			770,000,000 paper-marks
bb) 6 months after the 1st January 1923			260,000,000 "
1	year	"	200,000,000 "
2	years	"	250,000,000 "
3	"	"	150,000,000 "
4	"	"	150,000,000 "
5	"	"	150,000,000 "
6	"	"	50,000,000 "
7	"	"	50,000,000 "
8	"	"	40,000,000 "

cc)	1	year after the 1st February 1923
2	"	"
3	"	"
4	"	"
5	"	"
6	"	"
7	"	"
8	"	"

1, 300, 000, 000	paper-marks
100, 000, 000	"
125, 000, 000	"
65, 000, 000	"
65, 000, 000	"
65, 000, 000	"
65, 000, 000	"
115, 000, 000	"
115, 000, 000	"
120, 000, 000	"
770, 000, 000	paper-marks

In the course of the Summer 1923, the Shantung Railway and Mines Company exchanged 1,770 million paper-marks of these bonds into 8-15% Treasury bonds "K" year 1923, second edition. These bonds fall due the 1st September 1927.

As the Treasury bonds bearing no interest which were originally handed out to the Shantung Railway and Mines Company are not quoted on exchange, it has not been possible to ascertain official or inofficial rates for them.

The rate of exchange (market value) of the 8-15% Treasury bonds "K" taken in exchange was at the date of their delivery, i.e. the 5th September 1923, in paper-marks 110% of their face value. On to 7th April 1925, these bonds were quoted in gold-marks at a rate of 0.61 ¼ for 1 million paper-marks.

It is not possible at present to foresee to what extent further indemnities will have to be granted to the Shantung Railway and Mines Company. This depends, according to §1 of the "Reichsentlastungs-

gesetz" of the 4th June 1923 (Reichsgesetzblatt 1, p. 305.) on the financial capacity of the Reich. In granting further indemnities it has to be taken into consideration that the Japanese Government has sold the Shantung Railway to the Chinese Government for 40 million Mexican Dollars, a fact which in any case would let appear unjustified any reduction of the provisional credit of 59,000,000 gold-marks given by the Reparation Commission.

(Signed) Ruppel

To the
Reparation Commission,
Paris.

(付属書11)
五月七日賠償委員会单独逸戦争債務委員会宛書翰
山東鐵道及比鉄山会社ノ補償金ニ関シ更ニ情報提供方依頼ノ
件

Section Financière.

Finance Section.

C.R.

Parti le 8 Mai, 1925.

N° 13/125

7 May, 1925.

Sir,

I have the honour to acknowledge receipt of your letter N° 887 of the 4th May with regard to the part of the indemnity already paid by the German Government to the Shantung Railway & Mines Co.

I am to state that the Reparation Commission would however be glad if you would be good enough to supply the following additional information:—

(1) The exact number of the original non-interest bearing bonds in each of the blocks enumerated under "a", "b" and "cc" on page 2 of your letter which were retained and the exact number of bonds which were converted into 8-15% Treasury Bonds which were converted into 8-15% Treasury Bonds "K" 1923 second series.

(2) The date or dates of the conversion.

(3) The rate of interest earned by the "K" 1923

second series 8-15% Bonds during each year from the date when the Shantung Railway & Mines Co. acquired them to the maturity date.

The information under (3) will no doubt be shown in the prospectus concerning the issue of the bonds but the Reparation Commission has no copy of this prospectus readily available.

As regards the last sentence of your letter I am to remind you that the amount to be credited to Germany on Reparation Account is in accordance with the terms of paragraph 2 of the Protocol of the 28th June 1919 the "sums reimbursed by Germany to German nationals".

In conclusion the Commission notes that you are unable at present to state what further sums will be paid to the Company as indemnity. The Commission would, however, be glad if you would be good enough to arrange for statements of such sums to be forwarded to it as and when payment is effected.

ニ挙ケタルモノニ対シテハ(支那政府国庫証券及同証券利子)明確ナル数字ヲ掲ケタルモ、第一ニ挙ケタル項目即チ「ドーズ」案ニヨリ日本力独逸ヨリ受取ルヘキ額ニ付テハ、当時未タ確實ナル数字ヲ記載スルコト能ハサリシ次第ニ候。

然ルニ其後伯林ヘ照会ノ結果、右ノ数字ハ今ヤ判明致候、右ニ依レハ日本ノ受取ルヘキ賠償年次額ハ左ノ如ク相成申候。

賠償第二年度	約	六百三十五万	「ライヒスマルク」
賠償第三年度	〃	六百	万
賠償第四年度	〃	九百七十五万	
賠償第五年度及以降		千五百	万

右ノ数字ハ優先支払ノ費用ノ多寡ニヨリ多少ノ増減有ルヘ

I am,
Sir,
Your obedient Servant,
(Signed) S.A. ARMITAGE SMITH.
General Secretary.

The Secretary,
The Kriegslastenkommission,

2 rue Huysmans,
PARIS.

六十一 十一月十二日 在本邦独国大使ヨリ
出淵外務次官宛書簡(和訳文)
ドーズ案ニヨリ日本ガ受ケ取ルベキ賠償年次
額ニ関スル件

「ゾルフ」大使ヨリ出淵次官宛來翰訳文
拜啓陳者本年九月九日付書翰ニ於テ小生ハ山東鐵道会社ニ
対スル賠償問題ニ関シ、問題ノ顛末ヲ申上ケ、同時ニ奈何
ニセハ本問題ヲ解決シ得ヘキヤニ付キ愚見ヲ開陳致置候、
而シテ同書翰ノ第六頁ニ於テ日本政府カ右賠償ニ充当スヘ
キ資金トシテ小生ハ三個ノ財源ヲ挙ケ、其ノ中第二、第三

クソノ差額ハ日本ニトリ云フニ足ラサルモノナルヘク、從
ツテ平年ニ於テ日本ノ受取ルヘキ賠償年次金ヲ千五百万
「ライヒスマルク」ト算定スルモ大過ナカルヘシト存候。
茲ニ右ノ数字ヲ申上クル所以ノモノハ、貴下ニシテ明確ナ
ル数字上ノ基礎ヲ有セラルルニ於テハ、政府ヲシテ速カニ
右賠償問題ニ対スル態度ヲ決定セシムルニ都合ヨロシキカ
ト思惟スルカ為ニ候、同問題ノ速カニ満足スル解決ニ達セ
ンコト独逸国政府及ヒ小生ノ希望ニ堪エサルトコロニ有之
候。

一九二五年十一月十二日

敬具

東京ニテ ゾルフ

出 淵 殿